

斷若更有短狹賣買人與同罪、

延曆十五年二月十七日

〔太平記十四〕將軍御進發大渡山崎等合戰事

執事武藏守師直馳廻テ、略○中 暫閑マリ給ヘ、在家ヲコボチ、筏ニ組デ渡ランズルゾト下知セラレ

ケレバ、サシモ進ミケル兵、ゲニモトヤ思ケン、懸テ近邊ノ在家、數百家ヲ壞チ連テ、面二三町ナル

筏ヲゾ組ダリケル、

〔家忠日記増補追加〕慶長五年八月廿二日、萩原ノ渡リニ相向フ、略○中 本多忠勝等、各船筏ヲ組テ川

ヲ渡シ、向ヒノ岸ニ上テ、近邊ノ民屋ニ放火シテ、太良堤ニ陣ス、

〔萬葉集一雜歌〕藤原宮之役民作歌

我國者常世爾成卒、圖負流神龜毛、新世登泉乃河爾持越流、眞木乃都麻手乎、百不足、五十日、太爾作、

泝須良牟、伊蘇波久見者、神隨爾有之、

〔詞花和歌集二夏〕題玄らす

栢川のいかだのこのうき枕夏はすゞしきふしど也けり

〔千載和歌集五秋〕百首の歌奉りける時よめる

いかにして岩間も見えぬゆふ霧にとなせの筏おちてきつらむ

〔久安六年御百首〕冬

となせ川こす筏。しの綱手なは心ぼそきは年の暮かな

〔散木弃詞集九雜〕河よりいかだのくだるが、くひのたてるをみて、をしのけてくだるをみてよめる、

筏士にあふくま川の身をづくしをしのけられて過るころ哉

〔八倫訓蒙圖彙三〕筏師 奥山より伐くだして、川水にうかぶるを組合てこれに乗竿さしくだす

曾根好忠

前參議親隆

待賢門院安藝